

やまおおいとすげ

*Carex clivorum Ohwi*

稍々暗い林下で湿気ある処の傾斜面に生える多年生の半常緑多年生草本。関東山地から中部山地の割にせまい分布をする。屢々株立となるが匍枝はない。葉は長く垂れ気味で暗緑色、ルーペでみると細かい突起が一面にある。基部には紫黒色で多少光沢のある鞘状葉を伴う。4-5月頃に葉より短かい花序がでて、頂上の雄穂は淡緑白色、長さ3cmの線形で高く聳え、中辺より上に短かい鞘状葉腋から緑色で細い柱状で稍々疎花の雌穂が柄を以て立つ。雌花穎は長楕円形で白味勝ち、果囊はそれより超出して立ち、2.5mm長、両端に鋭尖して楕円体、緑色有毛、柱頭3。

かやつりぐさ科



第 3768 図

つるなしおおいとすげ

*Carex tenuinervis Ohwi*

九州の山地に特産の多年生草本。大株を作るが匍枝はない。全体は黄緑色で軟かい感じが強い。高さ30cm位、基部の鞘葉はわら色で、後に裂ける。葉の巾2mmで平坦、茎は4-5月頃に開花、頂穂は雌性で淡緑色、大きくて長さ3cm、高く立つ。雌穂は側生し、鞘状葉腋から細い梗で直立し、穂体は緩かな花附きの細柱状で長さ2cm位、緑白色。雌花穎は広楕円状倒卵形、果囊は超出し、倒卵状紡錘体で長さ2.5cm、緑色、膜質、毛を全く生ぜず、上部は多少外反する嘴となる。和名は蔓無し大糸スゲ。

かやつりぐさ科



第 3769 図

こんげんすげ

*Carex sachalinensis Fr. Schm.*

本州中部から北の山地で、ブナ帯の林下で湿度の高い地に多く生ずる多年生草本。細い根茎が疎に分岐、盛んに横走し、株は疎な群落を作る。高さ20cm内外、全草、鮮緑色で多少軟かい。茎は細く鈍稜の3稜状、平滑。葉は巾2mmで、質は薄く先端は垂れる。7月頃に茎頂に長さ1cm程の細い緑色の雄穂を立て、それから距って瘦せた雌穂を腋生するが下部のものには細い柄があり、苞葉は却って穂より短かい。雌穂は15mm内外、淡緑色、雌花穎は卵形、短芒、背には3脈が不鮮明にある。果囊は長さ3.5mm、後に褐色を帯びる。微毛あり。和名は権現スゲで、日光に産し、東照宮大権現より生じたものか。

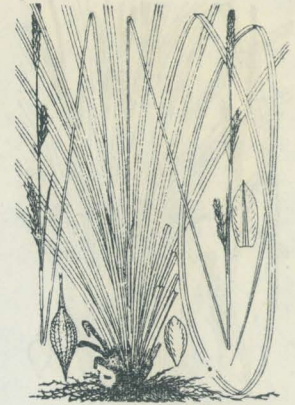
かやつりぐさ科



だいせんすげ

*Carex daisenensis Nakai*

関西北部から中国地方を北九州にわたって山間の溪畔に多い半常緑の多年生草本。高さ20-40cm、ミヤマカンスゲのその地方における変種種であって、柳形も似ているが、葉の根元に暗褐色の繊維を多数につけ、その状態はシユロ皮かぶらしに似ている。葉は稍硬い草質、草緑色で巾5mm許、花は5月頃にでるが、多少なよなよした軟かい軸に淡緑色の瘦せた穂がつき、雌花穎は多少褐色中央は緑色、果囊はこれを超えて直立し、長さ4mm 淡緑色の3稜ある長楕円形、嘴があり、浅く2裂、柱頭3。和名は産地伯耆大山にちなむ。



かやつりぐさ科

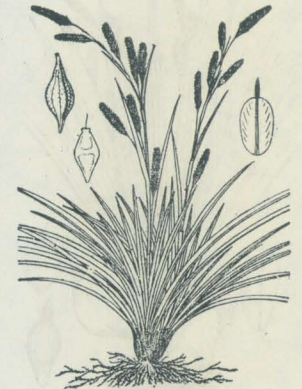
第 3771 図

たしろすげ

*Carex sociata Boott*

琉球を中心に、西は台湾、東は九州及び四国南端にまで及んでいる常緑多年生草本、密な株立となり高さ30cm内外、基部には暗褐色の繊維を伴う、葉は剛直で根元が開出するが普通茎よりも長くなり、巾5mm縁は平滑、春に瘦せた花茎を立て、黄褐色の穂をつける。頂は雄性、側生は雌、柱状長さ2cm内外で雌花穎の先が穂体から突出してみえるが葉状苞の鞘腋から2-3個ずつ長柄を以て出ているのはスゲ中では珍らしい。雌花穎は長楕円形で芒があり白味勝、果囊は立った後彎曲して上半開出、長2.5mm淡緑色で細毛があり、両端へ細く尖る。和名は田代スゲで田代安定氏を記念する。

かやつりぐさ科



第 3772 図

おおしまかんすげ

*Carex oshimensis Nakai*

伊豆七島中の向陽の裸地にはえる常緑多年生草本で、高さ40cm内外、密生した大株になる。根元には褐色の繊維が多量につく。葉は濃い暗緑色で巾5mm内外、縁はざらつき厚手で稍硬い。4月頃に稍剛直の茎を直線的に出し、頂には太い雄穂がつき、側方に雌穂長さ3cm内外(各々の頂は少部分雄性)いずれも明るい赤褐色の着色をみる。葉状苞は鞘長く且つ緩く、短かい葉身がつき小穂はそれより長い柄を有する。果囊は密生開出し、倒卵状紡錘形、長さ3.5mm時に少し散毛あり、雌花穎はそれより超出、着色強く、急に芒となる。和名は大島寒スゲで産地にちなむ。葉を家畜の飼料とする。

かやつりぐさ科

